

研究課題	教材推薦システムの再構築と知識理解の質が読解に及ぼす影響の考察		
氏名	篠崎 祐介	所属	人文社会科学系 日本語・日本文学研究講座
		職名	准教授
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度） <p>本研究の目的は、次の2点である。</p> <p>① 科研費（基盤研究（C）「国語科読解指導における複数教材の選択モデルの構築」21K02611）の助成を受けて開発した教材自動推薦システム「国語教材選択システム」（https://kokugokyoza.net/）の再構築を行うこと</p> <p>② 知識理解の方法が質感的であるか構造的であるかによって生徒の読解力に与える影響が異なるかを調査すること。</p> <p>①について。「国語教材選択システム」（https://kokugokyoza.net/）とは、高等学校国語科教科書に掲載された説明的文章教材（評論・随想等）をオンライン上で検索でき、その検索した教材と内容的に類似する教材が推薦される副教材の推薦システムのことである。本システムの検索対象は、2021（令和3）年度に高等学校国語科の科目「国語総合」・「現代文A」・「現代文B」で使用された教科書教材となっており、新課程の教材は含まれていない。そこで、新課程の教材も検索・推薦されるようにシステムの再構築を図ることとした。</p> <p>前年度に、新課程の科目として新設された「現代の国語」（令和4年度使用）・「論理国語」（令和5年度使用）の教科書教材リストを作成し、リスト化された教材のうち851点中460点のデータ入力を行っていた。本年度は、同教科書内で説明的文章と判断できる教材8点を新たにリストに加え、計859点の教材すべてのデータの入力を完了した。これらのデータと「国語教材選択システム」で検索可能な既存の教材データすべての相互の類似度を算出することによってシステムの改修を実施することができる。「国語教材選択システム」を共同して製作した研究者の協力を得ながら、令和8年度中の改修・公開を実施する予定である。</p> <p>②について。本研究は、文章読解における新たな理解様式として「質感的理解」という概念を提案し、その表出と読解力との関係を検討したものである。高校生の学習過程におけるワークシート記述と読解力テストを対象に、感覚語・比喩・イラスト・語句の連想という観点から分析を行った。その結果、「質感的理解」は、象徴的表現、感覚的表現、視覚的表現という複数の側面を有する可能性が示唆され、特に視覚的表現が読解力に寄与する可能性が示唆された。</p>			
【研究成果発表方法】 <p>①の研究成果については、https://kokugokyoza.net/またはhttps://sites.google.com/s.hokkyodai.ac.jp/jltmd/において公表する予定である。</p> <p>②の研究成果については、第69回日本読書学会大会（山本純慈・篠崎祐介「知識の質的理解が読解に及ぼす影響の考察」）において発表を行った。また、学会誌に論文を投稿予定である。</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。